



TITLE:

不換紙幣ノ價格ニ付テ河上博士ニ  
答フ

AUTHOR(S):

戸田, 海市

---

CITATION:

戸田, 海市. 不換紙幣ノ價格ニ付テ河上博士ニ答フ. 經濟論叢 1917, 4(2):  
298-300

ISSUE DATE:

1917-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127155>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號二第

卷四第

行發日一月二年六正大

## 論說

『一經濟學者ノ第一思想』ヲ讀ム……………	法學博士	河上肇
官業問題ニ就キテ(三)……………	法學博士	神戶正雄
體質廢類問題(三)……………	法學博士	財部靜治
經濟心理學ノ組織的研究(二)……………		米田庄太郎
消費ニ關スル學說ノ發達(二)……………		瀧本誠一

## 時事問題

減債基金論……………	法學博士	小川郷太郎
日支經濟關係ノ真相……………	法學博士	戶田海市
關西商業會議所聯合經濟調查會事業概況……………	法學博士	神戶正雄

## 雜錄

經濟雜話(八)……………	法學博士	田島錦治
中世ニ於ケル賣買ノ擔保……………	文學博士	三浦周行
不換紙幣ノ價格ニ付テ河上博士ニ答フ……………	法學博士	戶田海市
米ノ卸賣價格ト小賣價格……………	法學士	河田嗣郎
植民國トシテノ丁抹ノ末路……………		山本美越乃

## 不換紙幣ノ價格ニ付テ

河上博士ニ答フ

戸田海市

予輩カ前ニ不換紙幣ノ價格ニ關シテ卑見ヲ公ケ  
ニシタ際ニハ、下落セル不換紙幣ノ流通セル國  
ニ於テ物價騰貴ノ程度ト金ニ對スル紙幣ノ下落  
ノ程度トカ如何ナル關係ヲ有スヘキモノナリヤ  
ヲ研究ノ中心トシ、兩者カ相一致スルコトヲ正

常的狀態トスルト結論シ、從來西班牙伊太利等ノ歐洲大陸諸國ノ不換紙幣發行ノ場合ニ屢現ハレタ如ク、物價騰貴ノ度ヨリモ金紙ノ差カ一層大トナリシハ、此等ノ國カ通例對外債務國ナルヨリ、輸出入ノ關係以外ニ外債利拂ノ爲メ年々金ヲ需用シテ特ニ金ノ價ヲ騰貴セシメタ爲メテアラウ。不換紙幣國ノ貿易モ輸出入相平均スルコトヲ常態トスル故、外債ヲ負ハサル國ニ下落セル紙幣ノ流通スル場合ニハ、金紙ノ差カ物價騰貴ノ度ヨリ大トナルコトハアル。マイト論シタ。之ニ對シテ河上博士ハ米國ノ紙幣發行ノ歴史ニ基イタト考ヘラルル反對ノ事實及學說ヲ擧ケテ卑見ヲ評セラレタ。此問題ニ付キ精確ナル研究ヲ爲スニハ單ニ理論上ノ判斷ノミヲ以テ足レリトセス、更ニ諸國ノ不換紙幣發行ノ場合ニ於ケル金紙ノ差ト物價騰貴トカ如何ナル狀ヲ呈セシヤヲ詳細ニ調査セテハナラヌノテアルガ、予輩ハ未タ此等ノ材料ヲ充分ニ手ニスルニ至ラナイ。紙幣相場ノ調査ハ割合ニ容易テアルガ、物價平準ノ高低ヲ精確ニ調査スルコトハ甚タ困難

難テアル。故ニ今茲ニ河上博士ニ答フルニ方ツテモ單ニ理論的ノ推斷ヲ以テスルノ外ハナイノテアルガ、此問題ノ研究ニハ更ニ事實ノ調査ヲ完全ニスルノ必要ヲ感スルノテアル。

吾人ハ或國カ兌換券ヲ増發スレハ其國ノ物價カ騰貴シ、之カ爲メ其貿易カ輸入超過トナツテ正貨ノ流出ヲ來タシ、遂ニ兌換停止ノ已ムヲ得サルニ至ルコトアリト論スルニ方リテハ、一國ノ通貨膨脹ノ爲メ其物價平準カ高マルコトガ、同時ニ其國ハ貿易關係ヲ有スル一般外國ノ物價ニ對シテモ、其國ノ物價ヲ高カラシムルコトヲ意味スルモノテアル。併シ不換紙幣國ノ物價カ高マルト同時ニ、偶然ニモ諸外國ノ物價カ或ハ下リ、或ハ高マルコトカアル。諸外國一般ニ物價カ下リ又ハ上ルト云ヘハ、世界ヲ通シテ金ノ價カ騰貴シ又ハ下落スルコトテアリ、其影響ハ固ヨリ不換紙幣國ニモ波及シテ、之カ爲メ其國ノ物價騰貴ノ程度ヨリモ金紙ノ差カ或ハ大トナリ或ハ小トナルノテアル。吾々カ紙幣流通ノ物價ニ及ホス影響ヲ研究スルニ方ツテハ此ノ如キ偶

然ノ原因ヲ除外シ、即チ何レノ國ニ於テモ物價ヲ左右スル原因ニハ特別ノ變化起ラス、只タ特定國カ紙幣ヲ發行シタコトノミガ、其國及諸外國ノ物價ヲ動かスモノトシテ推論スルノテアル。然ラハ一國カ紙幣ヲ増發シテ其國ノ物價ヲ騰貴セシメタコトガ、同時ニ世界一般ノ物價ヲ動カシ、即チ世界ヲ通シテ金ノ價ヲ動かスノ作用ヲ爲スモノナリヤノ問題カ起ル。一國カ紙幣ヲ増發シタコトカ當然ニ諸外國ノ物價ヲ下落セシムル作用ヲ生スルコトナキハ言ヲ待タス。故ニ此場合ノ問題ハ一國ノ紙幣増發ニ由テ諸外國ノ物價ヲ騰貴セシムルコトナキヤ、即チ世界ヲ通シテ金ノ價ヲ下落セシムルコトナキヤト云フ問題トナルノテアル。若シ之ニ由テ金ノ一般的下落ヲ生スルモノトスレハ、不換紙幣國ニ於テハ其物價騰貴ノ度ヨリモ金紙ノ差カ小ナルノテアル

世界ヲ通シテ年々貨幣ノ需用ハ増加シ、又金製品ノ需用モ増加シ、之ニ伴フテ金ハ年々新タニ生産セラレルノテアルカ、今マ或國カ兌換券ヲ

濫發シテ其保有ノ金ヲ汎ク世界市場ニ散布シ、又其國カ其後不換紙幣國トナツテ從來ノ如ク年々新タニ貨幣用トシテノ金ノ需用ヲ止メタナラハ、一面ニ世界ノ產金額カ其レ丈ケ減少セサル限リハ世界一般ノ物價カ騰貴シ、即チ一般ニ金ノ價カ下落スルコト、ナル。併シ金ノ生産業モ他ノ一般生産業ト同シク營利的打算ニ由テ左右セラルル故、金ノ價カ下ラントスレハ其生産高ヲ減少シテ下落ヲ防クコトトナル筈テアル。産金業ハ土地生産業ノ一テアル故、金ノ價カ下ラントスレハ最多生産費ヲ要スル部分ニ於テ生産減少ノ調節作用カ行ハレル筈テアル。只タ多クノ場合ニ生産ハ隋力的ニ繼續シテ行ハレル傾向カアリ、特ニ固定資本ヲ多ク投下セル生産業ニ此傾向カ強イノテアルカ、産金業モ今日ハ一般ニ多クノ固定資本ヲ投下セル事業トナツテ居ル故、金ノ價カ下ツテモ直チニ其下落ヲ止メルカ如キ程度ニ生産ヲ減少シナイト云フ傾向ヲ有スルテアラウ。又以前ニ産金業カ資本ヲ固定スルコト少ナク、特ニ砂金生産カ重キヲ爲シタ時代

ニモ、其生産者ハ早晚意外ノ發掘ヲ爲スコトアラントノ希望ニ繫カレテ、金ノ下落ニ係ハラス生産ヲ繼續スルノ傾向ヲ有シタテアラウ。此點ヨリ見レハ或國カ紙幣増發ヲ爲シタコトカ世界ヲ通シテ金ノ下落ヲ生シ、從ツテ紙幣國ニ於テハ物價騰貴ノ度ヨリモ金紙ノ差カ小トナルノ傾向アリト斷定シ得ルヤウテアル。併シ乍ラ之ト同時ニ不換紙幣國ニ於テモ兌換停止後ノ通貨流通高ヲ人爲的ニ調節シテ之カ増發ヲ防クコトカ理論上不能テナク、又紙幣國ハ當ニ此ノ如キ發行調節策ヲ採ルヘキ筈テアルニ係ハラス、實際ニハ過度發行ニ陥ツテ其物價ヲ更ニ不當ニ騰貴セシムルコトカ通弊テアル

金ノ價カ下落セントスルニ方リ、其生産ヲ減少セシテ之ヲ下落セシムルノ傾向、即チ金ノ過度生産ノ傾向ト、不換紙幣國ノ紙幣濫發ノ傾向トノ強弱如何ト云フ問題ハ到底理論上ヨリ推斷シ得ヘキモノテハナイカ、只タ紙幣國ニ於テ物價騰貴ノ度ヨリモ金紙ノ差ノ方カ大トナレハ、世界貿易ノ上ヨリ見テ其國ハ特ニ物價ノ低キ國

トナル故、其貿易ハ輸出超過トナツテ金ノ流入ヲ來タシ、又金紙ノ差ノ方カ小トナレハ、其貿易ハ輸入超過トナツテ金ノ流出ヲ生シ、以テ金紙ノ差ヲシテ物價騰貴ノ程度ニ一致セシメルト云フ貿易上ノ平均作用ハ絶ヘス動キツ、アル。是レ予輩カ下落セル不換紙幣ノ流通セル國ニ於テ物價騰貴ノ度ト金ニ對スル紙幣下落ノ度トカ一致スルコトヲ正常の状態ト云フ所以テアル。

固ヨリ此結論ニハ不換紙幣國ノ物價カ騰貴ヲ初メル前ニハ、其物價カ諸外國ト平均ヲ保ツテ居タコトヲ前提トスルモノテアルガ、各國ノ物價ハ貿易作用ニ由テ互ニ平均ヲ保ツコトヲ以テ正常の状態トスル故、此前提ヲ設ケルコトハ正當テアル。只タ特定ノ不換紙幣國ニ於ケル物價カ、其騰貴ヲ初メル前ニ此ノ如キ正常の状態ニ在リシヤ否ニハ、特ニ事實ノ調査ヲ必要トスル予輩ノ知レル範圍ニ於テ獨佛ノ學者ハ概テ不換紙幣國ニ於ケル物價騰貴ノ度ヨリモ金紙ノ差カ一層大トナルノ傾向アリトスルヤウテアツテ、貿易政策ヲ論スルニ方ツテモ不換紙幣國ヨリノ

輸入ニ對シテハ特ニ輸入税ノ加重ヲ行フコト、尙ホだんびんクヲ防遏スル爲メニ輸入税ノ加重ヲ行フカ如クスヘシト論スル者モ少ナクナイ。是ハ歐洲大陸諸國ノ不換紙幣發行ノ歴史ニ基イタモノテアルト考ヘラレルガ、予輩ハ此傾向ヲ以テ正常的ノモノト認メス、之ヲ説明スルニ此等ノ紙幣國カ概テ對外債務國ナルヨリ、貿易關係ヨリ來ル正貨授受ノ外ニ、年々外債利拂ノ爲メ金ヲ必要トシタ爲メテアラウト解釋シタ。併シ之ハ只一ノ解釋トハ云ハレナイ。十九世紀ノ中葉過キヨリ世界ノ物價ハ下落ノ大勢ニ向フタガ、此ノ如キ場合ニモ同様ノ傾向ヲ示スコトカアリ得ル。只タ前ニ述ヘタ如ク歐洲諸國ノ不換紙幣發行ノ場合ニハ殆ント例外ナル此傾向ヲ示セシヤ、又其時期ハ恰モ世界ノ物價カ年々下リツツアリシ時ナリヤニ付テハ、更ニ事實ノ調査ヲ必要トスル。世界ノ物價カ年々騰貴シツツアル場合ヤ、銀貨國カ不換紙幣國トナツタ際ニ世界ノ銀相場カ下落ニ向ヘル場合ニハ反對ノ傾向ヲ生シ得ルノテアル。河上博士ノ援用セラレ

タ所ノ諸學者カ紙幣相場ニ此種ノ傾向アリト論シタノハ、恐ラク米國ノ綠背紙幣ノ場合ヲ觀察シタ結果テアラウガ、果シテ此反對ノ傾向カ上述ノ如キ原因ヨリ生セシヤ否ヤモ、更ニ事實ノ調査ヲ待ツテ判斷セテハナラス。只タ理論上ノ不換紙幣ニハ當然此傾向アリト云フヲ得サルハ上述ノル如クテアル

\* \* \*

茲ニ序ヲ以テ目下ノ歐洲交戰諸國ノ不換紙幣ノ相場ニ付テ一言スル。前ニ歐洲交戰國ニ於テ物價騰貴ノ度ヨリモ紙幣相場下落ノ度カ一層大トナリ、從ツテ此等ノ國ハ諸外國ニ對シテ物價ノ低キ國トナツテ戰後ノ競争ニ優勢トナルコトハアルマイト論シタガ、今日ノ實際ヲ見ルニ、此等ノ國カ紙幣發行ニ由テ其保有正貨ヲ世界市場ニ放出シタコトハ少ナイガ、十億ニ近キ年々ノ世界產金ヲ殆ント全ク吸收セス、之ヲ米國日米其他ノ諸國ノ間ニ散布シ、其結果世界ヲ通シテ物價ノ騰貴即チ金ノ下落ヲ生シタガ、併シ歐洲紙幣國ノ物價ハ兌換停止後ニ於テモ、巨大ナル

不生産の消費ニ由ル物資ノ缺乏ト紙幣ノ増發ト  
ニ由テ更ニ甚シキ騰貴ヲ生シ、之カ爲メ世界一  
般ノ物價騰貴ヲ打消シテ遙カニ餘リアルノミナ  
ラス、交戦國中ノ同盟國側ハ四境ヲ封鎖セラレ  
タ爲メ、物價ノ暴騰ニ係ハラス輸入超過ヲ生シ  
テ金ノ需用ヲ喚起スルコト少ナク、又世界ト通  
商ヲ繼續スル聯合國側ハ其保有ノ外國證券ノ賣  
戻シヤ外債募集ニ由テ輸入超過ヨリ生スル對外  
支拂ヲ支辨シ來リ、其結果一體ニ交戦國ニ於テ  
ハ物價騰貴ノ度ヨリモ紙幣下落ノ度カ小トナ  
リ、從ツテ此等ノ國ハ諸外國ニ比シテ眞ニ物價  
ノ高キ國トナツテ居ル。固ヨリ戰爭カ終レハ此  
狀態ハ大ニ變化シテ、物價騰貴ノ度ト紙幣下落  
ノ度トカ相接近スルコトナルテアラウガ、併  
シ曾テ論シタ如ク其紙幣下落カ物價騰貴ヨリモ  
更ニ大トナツテ世界市場ノ競争上利益ヲ得ルニ  
至ルトハ考ヘラレナイ